

瀬戸市とフランス・リモージュ市 姉妹都市提携10年の歩み

瀬戸市交流活力部交流学び課

やきものを通じた国際交流

瀬戸市は濃尾平野の東、尾張丘陵の一角にあって、中部経済圏の中心地である名古屋市の北東約20kmに位置しています。良質の陶土やガラスの原料となる珪砂が豊富なことと、自然環境にも恵まれていることから古くから窯業が発展し、今日では「せともの」は、やきものの代名詞として日本のみならず世界の人々に知られています。また、2005年の愛・地球博では、会場地として世界中から数多くのお客さまをお迎えしました。

瀬戸市は、やきものを通じて世界とつながり国際化を進めることを目的に、同じく窯業が盛んな中国・景德鎮市、フランス・リモージュ市、チュニジア・ナブール市、韓国・利川市と友好・姉妹都市提携を結んでいます。リモージュ市とは2003年11月に姉妹都市提携を締結し、以来10年にわたりさまざまな分野で交流を深めてきました。以下、両市の交流や10周年記念事業について紹介します。

これまでの交流

リモージュ市は、パリから南に350kmのフランス中央部に位置するリムーザン地方の中心都市です。かの有名な画家ルノワールの生誕地でもあり、島崎藤村も数か月滞在した都市です。リモージュ市の陶磁器産業は約250年の歴史があり、美しいリモージュ焼は今でも世界中の多くのファンを魅了しています。また、セラミックス分野の先端的な技術研究開発が行われ、ヨーロッパにおける先端のセラミックスの中核圏域となることを目指しています。瀬戸市とリモージュ市との交流のきっかけは、1992年に東京で開催された国際見本市、イ

ンテリアライフスタイルに出展したりリモージュ企業が瀬戸市を訪問したことでした。以来、産業・研究・教育機関を中心に数度にわたり相互訪問をし、2003年11月に姉妹都市提携の締結に至りました。翌年4月からは、リモージュ市内に瀬戸事務所を2年にわたり開設し、その後の姉妹都市交流の基礎を固めました。

当初は産業分野を中心に進められた姉妹都市交流でしたが、2005年の愛・地球博では、7月をリモージュ月間と定め、リモージュ物産展の開催やリモージュ市選手と瀬戸市選手による柔道の交流試合を行うなど、瀬戸市や日本の皆さんにリモージュに触れていただくための事業が展開されました。

同年12月には、リモージュ市が海外姉妹都市と合同で2年に一度行うコンサートに瀬戸市から初めて若手演奏者を派遣、翌年8月には中学生交流プログラムで市内の中学生10人がリモージュ市でホームステイを経験するなど、若い世代による交流も始まりました。

また、やきものの町ならではの交流も生まれています。2007年にアーティスト・イン・レジデンス事業でリモージュ市の陶芸家が瀬戸市に滞在し制作活動を行いました。2008年にはリモージュの近隣都市で開かれた展覧会に陶芸家1人を派遣、若手作家6人の作品を出展、2010年にリモージュ市で開かれた国際磁器博覧会へも作品を出展するなど、陶芸分野での交流が行われています。

10周年記念事業

2013年には姉妹都市提携10周年をお祝いする記念事業が行われました。リモージュ市では9月に

「セト・デイズ」が開催され、瀬戸市をはじめ、日本の文化を市民に紹介するさまざまなイベントが催されました。「セト・デイズ」期間中に開かれた2年に一度の



瀬戸市長とリモージュ市長（10周年記念公式訪問、2013年9月リモージュ市役所前にて）

料理イベントには日本人シェフを派遣し、「磁器」と「食」をテーマにしたイベントにおいてリモージュ焼と日本食の見事なコラボレーションが実現しました。また、11月に行われたジャズ・フェスティバルには瀬戸市出身のジャズシンガーほか3人の演奏者が招待され、リモージュ市民に向けて「日本のジャズ」を披露しました。



リモージュ市副市長はじめ公式訪問団一行（2013年10月リモージュ・デイズオープニングにて）

によるコンサート、世界的ソムリエを招いての講演会などを開催、またリモージュ市を紹介するパネル展やステンドグラスを用いたアクセサリー製作体験、フレグランスのワークショップも行われ、市民の皆さんにリモージュやフランスを身近に感じていただける催しを企画し、多くの方にご参加いただくことが



リモージュを拠点に活動するバンド「アルチュアン・ド・リエレ」の演奏（リモージュ・デイズ）

ができました。「セト・デイズ」と「リモージュ・デイズ」に合わせて、両市からは公式訪問団が派遣され、これからの姉妹都市交流のさらなる発展を誓い、絆を深め合いました。

これから

産業分野から始まった両都市の交流は、姉妹都市提携締結からの10年間で、陶芸や音楽などの芸術分野へ、そして若い世代による交流へと広がりました。10周年の年である2013年には、リモージュを拠点に活動する若手磁器デザイナーが瀬戸市内の窯元に約3か月間滞在し、陶磁器制作を行いました。また、同じ年にリモージュ市内の高校生からの呼びかけにより、瀬戸市内の私立高校との間でメールでの文通が始まりました。2008年にはリモージュ市からインターンシップの学生の受け入れも行っています。このように、両市が姉妹都市であることをきっかけとして若者が主体的に交流を始めつつあることは、両都市間の交流が新たな段階へと進んでいることを意味しています。若い市民から自発的に生まれた交流の芽が育つよう、サポートしていきたいと思えます。

また、リモージュ市との交流は、瀬戸市が目指す産業観光都市の実現に資する可能性を大いに秘めています。瀬戸市は、千年余の歴史と伝統を持つ「やきもの」のまちであり、その歴史と伝統、町並みや自然環境などの資源を活用して産業観光都市づくりを展開してきました。一方のリモージュ市も、リモージュ焼をはじめとする「火の芸術」のほか、音楽や食、歴史的な町並みなどの豊富な観光資源をもとにまちづくりを行っています。姉妹都市である強みを生かし、お互いの良いところを取り入れ両都市のさらなる発展につなげる、というような姉妹都市関係の戦略的な活用について、検討の余地がありそうです。

わが国最初の海外都市との姉妹都市提携が長崎市で結ばれたのが1955年であることを考えると、瀬戸市とリモージュ市との姉妹都市交流は始まったばかりで、まだまだ発展の余地があります。これまで育んできた関係を大切にしつつ、両都市の交流が持つ新たな可能性を探りながら、これからもリモージュ市との交流を進めていきたいと考えています。